

# 天皇盃 全国都道府県対抗男子駅伝競走大会

## 鳥取県代表候補選手選考基準

### ☆派遣主旨

・日本陸上競技連盟が、「47都道府県の参加を得て、わが国男子陸上競技の中・長距離選手の普及・強化育成を目的とする」として主催する、上記大会へ、鳥取陸上競技協会が当該年度の競技成績を参考にして、男子陸上競技の中・長距離選手の中から選手を選抜し、チーム編成を行い、鳥取県の代表として派遣する。

### ☆候補選手選考条件

- ・天皇盃 全国都道府県対抗男子駅伝競走大会へ出場する意志がある者。
- ・意思を確認したうえで中学は下記①②③に参加でき、④を了承した者。高校は下記②③に参加でき④を了承した者。大学・一般 下記③に参加でき④を了承した者

①都道府県対抗男子・女子駅伝選考会(11/23)

②鳥取陸協が計画し、12月～1月に候補選手を派遣する練習会・合宿・大会。

\*ただし、全国中学駅伝・全国高校駅伝出場等事情のある選手、受験と重なる練習会・合宿については免除することもある。

③天皇盃全国都道府県対抗男子駅伝競走大会。

④合宿費（10,000円程度）、チームウェア（25,000円程度）の自己負担金。

- ・陸連登記登録者：11月23日までに登録を完了している者。
- ・選手派遣の主旨を理解し、鳥取県代表としての自覚をもち、鳥取県を代表するにふさわしい競技力があり、日常生活でも他の模範となって物事に取り組むことができる人物であること。
- ・中学2年生以上とする。（大会規定により、中学1年生と陸連未登録者は、大会に参加できないため。）

### ☆選考方法

#### 《中学》

- ・選考レースへのエントリーをもって都道府県対抗男子駅伝競走大会出場の意志確認とする。
- ・都道府県対抗駅伝男子・女子選考会（11月23日）選考レースの上位4名と当該年度のトラッ

クレースにおける全国大会・中国大会出場者の実績および結果から判断する。

## 《高校》

・所属校（チーム）や本人の意志を確認し、以下の通り選考する。

### 【1次選考】

当該年度の4月1日から11月23日までの5000mの公認記録にて選考する。まず、A標準（14分10秒）を突破した者を優先的に選考する。次いで、B標準（14分30秒）を突破した者を選考する。ただし、B標準までの突破者が5名を超えた場合、5000mの公認記録および、鳥取県高校駅伝、中国高校駅伝の結果を総合的に判断して選考する。

### 【2次選考】

1次選考で該当者が4名に満たなかった場合、当該年度の9月1日から12月2日の鳥取陸協第6回トラック記録会までの5000m公認記録上位者から選考する。ただし、鳥取県高校駅伝、中国高校駅伝の結果も含めて総合的に判断する。

### 【3次選考】

選手変更が必要となった場合に限り、当該年度の9月1日以降の5000m公認記録によって、記録上位者から選考する。

## 《一般》

所属チームや本人の意思を確認し、当該年度の10000m、20km、ハーフマラソンの競技成績から判断する。

\*中学、高校、一般ともに鳥取陸上競技協会会長、専務理事、強化部の了承を得て最終決定する。

### \*その他

・選考会までや、選考会当日に突発的な事故等により、選考会に参加できない事情ができた選手および、所属チームの事情により対象レースに参加できない選手については、以下の事項を参考に協議し選考する。

ア、受験・慶弔など本人の責任ではない理由や、ケガ・故障・病気などの理由。

イ、天皇盃都道府県対抗男子駅伝競走大会への参加意志。

ウ、当該年度競技成績と当該年度公認ベスト記録。(県内ベスト3以内が目安)

エ、ケガや故障、病気などの回復具合。(大会参加が可能な状態であること)

オ、陸上競技を継続して取り組む意志。

**\*注・・・**上記以外の場合、関係者で別途協議して選考を行う。

- ・一度選考した選手が、ケガ、故障などの理由により大会で走ることができない場合には、候補選手から除外し、選考基準に照らし合わせ、新たな選手を選抜する可能性もある。

## ☆チーム編成

- ・候補者数は以下の人数とする。

中学生2区間 →候補者数4名 (ジュニアBの競技者と呼ぶ)

高校生3区間 →候補者数4名 (ジュニアAの競技者と呼ぶ)

一般2区間 →候補者数3名

※中学生については公認記録上位3名をプログラム記載登録とし、残り1名はエントリー変更での入れ替え要員とする。

※一般については、県外登録のふるさと選手1名と鳥取県登録者2名とする。

- ・選手の総数は11名とする。
- ・支援コーチとして候補選手派遣校(チーム)の顧問または指導者に大会への帯同を依頼する場合がある。